

# 基礎期通信「ひたまり」

市立札幌開成中等教育学校

基礎期通信 NO.16

2020.12.16.(Wed.)

新しい生活様式を怠らないように。

今号は2年生の宿泊研修の5-8グループの内容を掲載します。前回の続きです。

## 1. 健康・医療 G～温泉とSDGs～

蘭越町は、お米と温泉の町でありながら、実際に地下からのガスによって水が温められて温泉になった雪秩父（湯本温泉）と、源泉かけ流しの幽泉閣（昆布川温泉）に行きました。施設の説明を梅本さんにしていただきました。温泉成分や蘭越町が行っている事業について教わりました。蘭越町はエネルギーにも取り組んでおり、温泉熱を利用した地熱発電や風力発電といった再生可能エネルギーを開発していることを知りました。SDGsの目標7「エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」に貢献していると思いました。また、蘭越町は、実は海岸に接しており、全く蘭越町についての事前学習をしていなかったと反省しました。今後は蘭越町について探究をし、10の学習者像の「探究する人」に近づけたらいいなと思います。

更に、実際に温泉に入ることができ、温泉の肌触りの違いから効能を知ることができ、入浴等の体験から得られることの大切さも知ることができました。Bチーム H



7 エネルギーをみんなに  
そしてクリーンに



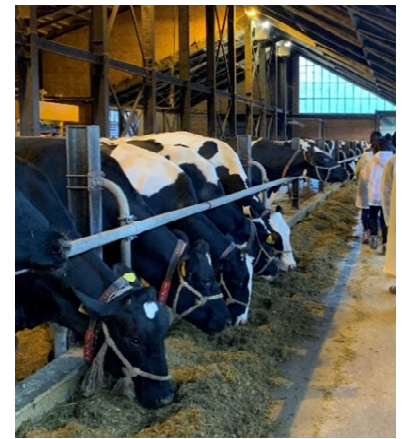
## 2. 働き方 G～自然と向き合い働く～

ニセコワイナリーでは、ワインを作る過程やニセコの農業の厳しさや難しさなどを学びました。1日目は、ワインを発酵させているところや葡萄を潰して果汁を取り出す機械を見学しました。ニセコ町は、冬に厚い氷に覆われ、それが溶けるのは4月に入ってからです。ブドウの開花時期が遅くなり、日に照らされる時間が少なくなります。ワインを発酵させる酵母が活発に活動するために、瓶を回転させたり角度を変えたりして、常に管理していなければなりません。このように、難しいワイン作りに加え、ニセコ町の厳しい自然環境と共生しながら農業をする本間さんの働き方を知り、インターネットで調べただけでは分からない仕事への思いやプライドを感じました。

2日目は、本題であるプレゼンです。事前学習で調べたことに加え、1日目で得た学びを織り交ぜて発表することができました。質疑応答の際は、私たち自身の農業への考え方などを問われました。プレゼンで提言した事を行う時の問題点や課題に対して指摘を頂き、自分が農業に対して抱いていた考えを改める必要があると感じました。実際に働いている人の現場の見学や意見を交流で、「働くこと」への実感がわきました。これを機に、将来自分働き出した時、何を働きがいとすべきか、そもそも働くとはどういうことなのかをもう一度考え直し、3月の成果報告会で、今回得た学びを発表し、基礎期として過ごした2年間の集大成にしたいと思います。Fチーム 0

### 3. 経済 G ~ 自分は何ができるのか ~

酪農だけではなく牧場付近に乳製品を加工した物の店を開いた経緯、生産調整や情勢によって作るものの調節、お客さんのニーズを見つけ店を新たに開いたり高橋牧場を良くするために行動したことを教えていただきました。そして牛を大切に思い、牛のストレスが無いように共に生きていく。そのために人間の手で行っていたお世話などを機械化し牛が自由に餌を食べ、自由に乳を絞れるという元々の自然な生き方を実現させていました。さらに牛舎の中に入れてもらい、実際に機械で搾乳しているところを見させていただきました。そして今回お話ししてく



ださった高井さんの『他に自分は何が出来るか』『集団の1人として何が出来るか』『どういった存在として生きていくか』という言葉。これを自分に当てはめてこれからの学校生活、会社活動など自分はどの行動をとるべきか考えさせられました。高橋牧場の歴史や思い、アイスクリーム作り体験、牧場内の見学など多くのことを知り、体験できて良い学習になりました。Fチーム T

### 4. 環境・インフラ G ~ ネットの情報と実際にニセコで感じた差 ~



今はスマホひとつでなんでもかんでもググって、全てを知った気になり、Google Earthでその場所に行った気になれる時代。実際これまでの評価課題もそうやってこなしてきた。

事前学習でニセコの自然、林業やトドマツなどについて調べ、それらをテーマにプレゼンを作った僕たちは、いつもの如く全てを知り尽くしたつもりだった。でもHIKOBAYUを訪ねてトドマツの精油を作ったり、自分の脚でニセコの自然を歩いたり、ニセコの澤田さんの話を聞いていく中でネットやSNSには載っていなかったこと、

それらとは真反対の事実や考え方や見方があることを知った。そして製油づくりの中でトドマツの「香り」「針葉樹の葉の硬さ」を感じ、散策は「自然の美しさ」「鳥の鳴き声」を体感できた。ネットやSNSを通じては絶対に得ることのできない「感覚」を全身で感じることもできたと思う。

現地に行けばネットにはないホンモノを知ることができる。もちろんホンモノの為に毎回現地に出向くのは難しい。ネットを使えばその場で情報を手にすることができる、でもそれはホンモノだとは限らないという意識を持って学習することが大切なのだ。それに気がつくことのできた宿泊研修だった。Dチーム K

### 5. IB コラム⑪ 行動 (Action)

IB のプログラムにおいては、行動することが求められ、それを代表する形として MYP では SA(Service as Action)、DP では CAS(Creativity, Activity, Service)が用意されています。これらは平たく言うと奉仕活動のことですが、日本の従来の奉仕活動と違って、学校で学んだ教科の内容を、活動の場面で活かすことが求められます。必然的に、奉仕活動は自分で計画することになり、他人が利益を享受できる形にすることが理想です。生徒の皆さんには、「知識は、社会や地域で活用して初めて役に立つ」という考え方をぜひ体現し、学んだ内容を広げ、深めてほしいと思います。